

水も地の利金ヶ城より力ら青くはくふらふもそ近辺
を焼き拂ひ西の方鱈川をこえと突きこの方を押包
向ひ陣を取山の腰を堀切り柵逆茂木を引き敵我陣
と張り城中兵糧の尽きを待かけとて城中より徒に救
日を送り退屈して見ゆるは城中井一つあり水不足
ある故に救なく難兵少の沢邊に忍び出て水を汲
み來りあるを以て次の板兵を伏せ待居り城中
より動と知れしめて日暮れぬに數十人水桶を引き
沢邊に來り水を伏兵の手に懸り其中より取込一人を
さらし打取るる秀頼ゆて安んじと思ひて次の救難兵

先づ其の宛先の者百余人跡より河に水汲み下りし者
 ありし秋兵部と見えて例の如く人形取込折見
 と云れ散く射立られ討る者有り多かりしに
 近邊に陣取たる草薙備前守嫡子武田兵庫頭季
 續是を分て若黨五人引連れ横合にかけ入敵大切
 と落し火花をちりて我し多に城守の者散れ射
 かり程に主従五人同じ枕に射伏せし者大勢也
 向ふは城守引入れ力なく中傷へたりし者
 以て戦死公少召大將此城を三月に占めし
 く已と落城し少の者目を見たり未だ此城を占め